

商標権侵害に関するパネルディスカッション と海外調査研究事業

－「国際知財司法シンポジウム2017～日中韓・ASEAN諸国 における知的財産紛争解決～」(2日目)の結果概要－

日弁連知的財産センター委員長 城山 康文
同委員 相良由里子
法務省法務総合研究所国際協力部教官 横山 栄作
法務省法務総合研究所国際協力部教官 東尾 和幸
法務省大臣官房司法法制部付 伊賀 和幸

第1 2日目の概要

国際知財司法シンポジウム(JSIP)2017の2日目(2017年10月31日)は、法務省の主導による企画が実施された。

まず、午前中は、ASEAN9カ国から招聘した各国2名の裁判官を、国ごとに2つのグループに分け、それぞれのグループにおいて、商標権侵害についての統一事例を題材にパネルディスカッションが行われた。第1分科会は、法務省法務総合研究所国際協力部の東尾が司会、城山がモデレータを担当し、メコン川流域を構成するカンボジア王国、ラオス人民民主共和国、ミャンマー連邦共和国、タイ王国及びベトナム社会主義共和国の各国の裁判官にパネリストとしてご登壇いただいた¹。第2分科会は、法務省法務総合研究所国際協力部の横山が司会、相良がモデレータを担当し、島嶼部を構成するブルネイ・ダルサラーム国、インドネシア共和国、マレーシア及びフィリピン共和国の各国の裁判官にパネリストとしてご登壇いただいた²。なお、各国から招聘した裁判官、合計18名のうち8名が女性であり、ASEAN各国の司法における女性活躍の状況

1 第1分科会に参加したのは、カンボジア王国Appellate CourtのChay Chandaravan裁判官(男性)とYou Bunna裁判官(男性)、ラオス人民民主共和国People's Supreme CourtのChanthanom Sirivath裁判官(女性)とPeople's Central High CourtのOmpasa Sayakoummane裁判官(女性)、ミャンマー連邦共和国Supreme CourtのMin Thant裁判官(男性)とMyo Tint裁判官(男性)、タイ王国: Supreme CourtのPhattarasak Vannasaeng裁判官(男性)とToon Mek-yong裁判官(男性)、ベトナム社会主義共和国: People's Court of Bac NinhのNgyuen Dac Dung裁判官(男性)とPeople's Court of Long An ProvinceのPhan Ngoc Hoang Dinh Thuc裁判官(女性)。

2 第2分科会に参加したのは、ブルネイ・ダルサラーム国Supreme CourtのHarnita Zelda Skinner裁判官(女性)とIntermediate CourtのPg Masni Pg Hj Bahar裁判官(女性)、インドネシア共和国Surabaya District CourtのAnne Rusiana裁判官(女性)とTanjung Karang District CourtのPujiastuti Handayani裁判官(女性)、マレーシアKuala Lumpur High CourtのHanipah Binti Farikullah裁判官(女性)とWong Kian Kheong裁判官(男性)、フィリピン共和国Regional Trial Court, Cagayan de Oro CityのDennis Zaballero Alcantar裁判官(男性)と同Caloocan CityのRemigio Magsino Escalada, Jr.裁判官(男性)。

を示している。



(ベトナム(中央)とインドネシアの裁判官)



(ラオスの裁判官)

午後の前半は、城山と相良からそれぞれ各分科会報告を行った後、法務省法務総合研究所総務企画部の渡邊真知子教官の司会の下、9ヵ国の裁判官と相良をパネリストとし、城山をモデレータとする総括パネルディスカッションが行われた。

そして、午後の後半は、法務省大臣官房司法法制部による知財紛争を含む海外調査研究事業について、伊賀の司会の下、池田崇志弁護士及び鈴木健文弁護士並びに千葉由美子・同部付により、紹介及び報告がなされた。

最後に、法務省法務総合研究所の佐久間達哉所長により、2日目全体の総括がなされた。



(2日目のシンポジウム関係者の集合写真)

第2 各国裁判官の招聘

いわゆるASEAN+3の枠組みで実施する以上、1か国でも欠けるわけにはいかず、12か国から必ず招聘しなければならないという意識は、主催者間で共有されていた。法務省は、ASEAN